



発行

令和8年3月31日

相模原市文化財調査・普及員
広報グループ

文化庁指定
文化財愛護
シンボルマーク

両手のひらと日本
建築伝統の組物を
イメージしたもの

～「さねさし」とは、相模の枕詞です～

5月 津久井観音霊場の御開帳があります

津久井三十三観音霊場は宝暦年間（1751～1764年代）
うんごじ だいうんぜんむ
雲居寺住職大雲禪無和尚が津久井郡内に呼び掛けて雲居寺を一番
として来迎寺を三十三番とする津久井三十三ヵ所観音霊場を開設
しました。その後霊場加入の希望があって平成2年（1990）の
本開帳から番外霊場を改め通番で現在四十三番までとなり津久井
観音霊場と改められました。うまどし午年を本開帳、ねどし なかかいちよう子年を中開帳として
開帳されています。令和8年（2026）は本開帳に当たります。

文化財調査・普及員津久井班は津久井地区の文化財を毎年パトロールしていますが、御開帳の時でないとは拝観できない文化財があります。もちろん観音菩薩そのものが文化財と云えますが、他に寺宝がたくさんあり、それらを観覧できる良い機会です。現在の観音霊場巡りは歩くだけでなく自転車、車、バスなどの交通手段がありますから昔と同じような霊場巡りは体験できないかと思いますが、津久井地域だけの限られた区域で霊場巡りを体感できる良い機会だと思います。観音霊場ガイドブックは各寺院にあります。今回は四十三観音霊場で住職不在のため拝観できない霊場があるかもしれませんが、御開帳期間としては令和8年（2026）5月10日から5月23日まで、時間帯は原則9時から16時で行われます。（津久井班 土屋）

目次	
・5月 津久井観音霊場の御開帳があります	P 1
・カマドと土間の今昔 —考古班活動—	P 2
・下溝に残る貞心尼ゆかりの場所	P 3
・文化財調査・普及員の募集	P 4



第5番 萬壽山大正寺境外仏堂
久保沢観音堂
霊場本尊：聖観世音菩薩
市登録有形民俗文化財
久保沢観音堂の百体観音



第9番 蔵眼山観音寺
霊場本尊：聖観世音菩薩
市指定有形文化財（建造物）
観音寺の仁王門



第12番 熊野山祥泉寺
霊場本尊：聖観世音菩薩
市指定有形文化財（彫刻）：祥泉寺の木造阿弥陀如来立像・
木造薬師如来立像・木造千手観音菩薩立像



第14番 石老山顕鏡寺
霊場本尊：十一面観世音菩薩
市指定有形文化財（彫刻）
顕鏡寺の木造阿弥陀如来坐像

カマドと土間の今昔 —考古班活動—

考古班では、文化財課の指導のもと平安時代に使われていた古代カマド灰土から土を洗い灰の中に残った微細な遺物を見つけ出す作業を行っています。金属製のざるで灰土を何度も水洗いし、通した洗った水の土の濁りがなくなるまで洗います。そして洗った水面に浮揚したものとざるに残ったものがあります。この土以外の残った遺物には、燃料が燃え残った炭化木片、炭化種実や魚の骨などの食物残渣が検出される場合があるとのこと。この段階で私たちが観察しても全くわかりません。次の段階の作業で樹種や種実の同定など専門的な分析調査を行い、判別できるものが見つかるということです。

この古代カマドと云われるのはいつ頃から造られたのでしょうか、古墳時代中期ごろ竪穴住居に造り付けのカマドが使われるようになり次第に普及したと云われます。この竪穴住居での造り付けカマドと昭和の中頃まで使われていたカマドは甗、^{こしき}羽釜^{はがま}など釜の形は変わっても地面に造り付けた点では変わってないと思います。竪穴住居の地面はどのように固めたのでしょうか。土間はたたき（三和土）とも云われ土、消石灰、にがりなどの材料でより硬く締められているということです。戦後生まれの年代で実際にカマドを利用し、薪をくべる経験をした方はどのくらいいるのでしょうか。土間は間取りが広く使われ、台所、風呂場、水桶などもおかれしました。昭和30年代になると電気釜が使われるようになり急激にカマドは使われなくなりました。カマドがなくなり、作業場も必要ない、一般住居では、土間はなくなってしまったように思いますが、しかし現代でも土足のまま入って履物を脱ぐ玄関があります。下駄箱、傘立て、自転車など外出に利用するものが置かれています。土ではなく、コンクリート、モルタルなどになっていますが、この玄関の間が小さな土間として残っているともいえるのではないのでしょうか。

(考古班 土屋)



山梨県立考古博物館にある縄文時代の竪穴住居室内ジオラマ
 炉で魚を焼き、土器・石器があり、奥は藁敷きされる
 土間は台所であり、作業場であり、寝床・休む所でしょうか



相模原市公民家園（相模川自然の村公園内）にある
 神奈川県指定重要文化財旧青柳寺庫裡のカマドと土間



旧府中町役場宿直室隣のカマド

下溝に残る貞心尼ゆかりの場所

南区下溝にある戦国時代に生きていた貞心尼ゆかりの場所を紹介します。

貞心尼は下溝に伝わる伝説の尼僧です。戦国時代小田原北条氏四代当主北条氏政の実弟北条氏照の一人娘として生を受けました。成人して重臣の山中おおいのすけ大炊助に嫁ぎ下溝の堀之内に居を構えます。まもなくして夫とは死別し、間にできた娘も若くして世を去ります。世を憐んだ姫は天応院で剃髪し、貞心と名乗りました。天応院には自分の領地を寄贈し、天応院を救った事で中興開祖と言われています。やがて30歳前後で亡くなってしまったようです。天正18年(1590)小田原北条氏が豊臣秀吉に攻められ滅亡する少し前の事でした。



貞心尼坐像



貞心尼の墓(天応院)

天応院には貞心尼の坐像(非公開)と貞心尼の墓があります。五輪塔の正面には戒名「靈照院殿中室貞心大姉淑靈」と記され、裏には天正16年(1588)8月26日に亡くなったとあります。五輪塔横の石碑碑文には「小田原北条四代氏政公の弟、氏照公の姫として生まれ重臣山中大炊助に嫁ぐ。この時、井上、福田氏らが護衛の為、当地に移り住んだ。貞心尼と名乗り仏道に精進した」とあります。墓の後方に古くからある石塔が建ってます。



山中貞心神社

山中貞心神社は堀之内界隈で何度か変遷を経て今の場所に落ち着いた様です。毎年地元の方が貞心神社の定例行事を行っているとの事です。堀之内自治会館の近くにある静かな佇まいの中に歴史を感じさせる神社です。
所在地：下溝 1832 付近

市登録有形文化財である長屋門のある福田家には代々伝わる貞心尼の位牌があります。福田家の先祖は貞心尼が結婚して堀之内に移って来たとき随行した家臣と言われています。この位牌には戒名とともに貞心尼が亡くなった年号、日付、亡くなった時刻が記されているのに享年が記されていない不思議な位牌です。

貞心尼は家庭的に恵まれなかった様です。大正坂を上がった月米坂をひとり登り、二十三夜の月(下弦の月)を仰ぎ勢至菩薩の来迎を信じて亡き夫や娘の面影を偲んだのではと思われます。

この逸話を物語る碑が二十三夜供養塔でギオンスタジアムのジョギングコースを少し離れた所にひっそりと建っています。



日之宮神社

日之宮神社は元亀元年(1570)に貞心尼によって勧請されたものと伝えられています。現在松原自治会館内にあります。所在地：下溝 1712

日之下地藏尊は天正年間に貞心尼が幼くして亡くなった娘の供養の為、建立したもので子育て地藏尊とも言われています。またこの地は水利の便乏しく日照りの折はこの地藏尊に水を浴びせ雨乞いしたとの事です。



日之下地藏尊



二十三夜供養塔



福田家の長屋門(市登録文化財)

(南部班 高井)

相模原市

文化財調査・普及員の募集

募集期間 6月中旬～8月中旬（予定）

文化財調査・普及員は市民と行政のパートナーシップによる文化財の保存と活用を図るために発足したボランティアです。

地域班に所属し、分野別班や実行委員などで同じ興味を持った仲間たちと活動することができます。

活動内容

- ・各地域班での文化財パトロール等 月1回程度の定例活動
〔以下、有志での活動の一例〕
- ・分野別班での活動
 - ・考古班や地名・古道班での調査、研究など
- ・教育委員会主催の文化財普及事業にスタッフとして参加
 - ・史跡田名向原遺跡公園での解説案内
 - ・史跡勝坂遺跡公園での体験学習
 - ・古民家園で実施される保存事業や講演会 など
- ・津久井城跡市民協働調査に市民調査員として参加
講習会・視察研修、発掘調査、公開事業など

対象

- (1) 郷土の歴史や自然に興味があり、ボランティア活動に取り組む意欲のある方
- (2) 教育委員会が主催する講習会に参加できる方

登録までの流れ

8月下旬から10月下旬に実施する全8回程度の講習会を受講受講後、参加意欲のある方を登録します。

※講習会は土・日のいずれかに開催します。

申込方法

広報さがみはら6月15日号 のほか、
市HP、文化財課Instagramを
ご確認ください。



活動の一例



史跡公園等での解説案内



イベント運営など



津久井城跡市民協働調査への参加

問い合わせ・申込先
相模原市教育委員会 文化財課

〒252-5277
相模原市中央区中央2-11-15
電話：042-769-8371
fax：042-754-7990
Eメール：bunkazai@city.sagamihara.kanagawa.jp